

リテラシー研究会

Literacy Seminary

I. 活動報告

リテラシー研究会は2014年1月から2014年12月までの期間に、研究会、現役生および社会人によるカンボジアスタディーツアー、メーリングリストおよびソーシャルネットワークサービス（SNS）を通じた情報交換を行った。2014年の後半は、カンボジアスタディーツアーの報告書執筆を通じた勉強会を続けている。

1. 研究例会などの活動記録

2014年3月8日（土）に次の講演会を「土曜リテ研（識字研究会）」の名称で開催した。

会場	タイトル	発表・講演者
東ヶ崎記念ダイアログハウス 2F 中会議室	「言語・文字・識字」 (発表スライドをウェブサイトに掲載)	千葉果弘 (国際基督教大学教育研究所顧問)

<http://subsite.icu.ac.jp/people/suzukiyo/literacytop.htm>

18名の参加者を得、千葉果弘先生の「言語・文字・識字」と題する講義を通して2015年以降の途上国の基礎教育、識字教育を考えた。概要は以下の通り。「国連はミレニアム開発目標（MDGs）として、2015年に子どもの修了率100%とすることを掲げたが、現在、ユネスコはその達成に悲観的である。なぜ悲観的なのか、具体的なデータを示しつつ、ポスト2015年の7つの問題点を考察した。また、文字の発祥から現代までを振り返り、多言語社会ではどの言語、どの文字を教育・識字用語に選択するか重要な課題であることを議論した。」講義の終わりは講演者の次のメッセージで締めくくられた。

人類が文字を創りだしてから5500年が経過した。そのうち最初の1000年の間、文字は支配者、知識階級、僧侶に占有されてきたが、アルファベットの発明は文字と知の大衆化の始まりであった。しかし、文字の完全な大衆化にはこれから何年もかかるだろう。人はすべて読み書きする能力を備え持っており、非識字は学ぶ機会を与えられなかった結果である。識字は自由、人権、平和、共生、民主主義実現の基本的要因であり、Literacy for Allの実現には人権を否定する差別社会を根絶することが求められる。識字目標を引き延ばすマンネリ化したDecadeに代わる新しいアプローチや世界戦略を展開することも視野に入れるべきである。（発表スライドより抜粋）

講演終了後、コンゴ民主共和国で職業訓練・職業教育支援に携わっているリテ研OGによる活動報告が行われた。

現役学生と卒業生がほぼ同数参加し、最先端の「今」の世界、日本の識字問題にそれぞれの立場から疑問、提言、経験を述べ合い、共有する事で刺激を受けあった。専門家の勉強会ではなく、教育に関心のある人たちが集まって、今を憂い、先を案じ、そして知恵を出し合って、未来を描く場としての動きを続けている。

2. スタディーツアー関連活動

カンボジアスタディーツアーは、2013年秋学期から準備を初め、2014年3月10日から22日までの13日間、5名の参加者で行った。日本ユネスコ協会連盟の支援する「アンコール寺子屋プロジェクト」のコミュニティーラーニングセンター、日本ユネスコアジア文化センターが支援しているスマイルクラスなどの識字活動の現場を見学し、教育省を訪問して政府の識字教育についての活動状況を学んだ。同時にカンボジアの抱えている負の遺産、大量虐殺の歴史と地雷・

不発弾の問題についての学びや、私立大学訪問、日本語学校訪問、アンコール遺跡修復活動や伝統織物の復興支援活動のサイト訪問など、識字に限らず広くカンボジアの今を見聞きすることができた。

2014 年度春学期、秋学期はカンボジアスタディーツアーの報告をまとめる作業に専念している。

3. 卒業生の活動

2014 年 1 月以降のメーリングリストおよびソーシャルネットワークサービスを通じて、ユネスコや国連関係、学会などの国際会議、シンポジウム、講演会などの開催情報や報告、研修会情報、求人情報、ボランティア募集、書籍の出版情報が寄せられた。ほかに持続可能な開発に関する MOOCs（大型公開オンライン課程）への招待、シリア難民問題のテレビ放送の情報、近況報告が掲載された。国際関係機関からの情報では、提供されなければアクセスしにくい資料などをダウンロードして閲覧することができた。国外ではヨーロッパ、アフリカ、南アジアからの発信が多かった。

II. 今後の活動計画

リテラシー研究会の今後の活動計画は、2 月に土曜リテ研を計画するほか、スタディーツアー報告書を通した発信、現役生を中心に研究例会開催である。現役生と卒業生、卒業生同士が交流し、切磋琢磨する機会として、対面の研究会とインターネットを利用した情報交流の双方を今後も継続していきたいと考えている。

[リテラシー研究会 HP] <http://subsite.icu.ac.jp/org/liteken/>

鈴木 庸子・吉田 信行
SUZUKI, Yoko & YOSHIDA, Nobuyuki